罹患率ハ増大スル。流産早産ニ於テモ大ナル影響ガアル。又蒙古症、「クレチン」病モソノ原因ニ依ル。實驗的ニ、「ビタミン」A缺乏ノ牛乳ヲ飼育シタ犢ハ50日乃至60日ヲ死亡シタ。「ビタミン」B缺乏ハ幼兒ノ發育障礙、畸型ノ原因ニナル。而シテ餛飩粉、砂糖類ハ體內ノ鐵質及「ビタミン」ノ含有量ヲ減少セシメル。溶脂性「ビタミン」即 A、D ヲ用ヒテ蝕蝕感染ヲ中絶セシメタ實驗モアル。近年アラスカノエスキモ一聞ニ結核症、關節炎が増加シタ、又心臟疾患モ増加シタ、是等ハ土地ガ良ク耕作セラレ、肥沃ナラザル狀態ニナツタ爲ニ燐、「ビタミン」ノ減少ヲ來シタニ依ルノデアアル。血液内ノ無機燐ハ20歳位マデハ其量が増加スル、而シテ後漸次減少スルモノデアアルガ、「ビタミン」及鐵質ヲ與ヘルト、再び増加スル。カ、ル際ニハ蝕蝕ハ中絶スル。

要約スレバ、近代文明ハ變性病變就中蝕蝕ヲ増加スル。又原始の人類ハ吾々文明人ニ比シテ蝕蝕ニ罹リニクイ。然シ、近代文明食物ノ攝取ニ依ツテ免疫性ハ失ハレル。原始の食物ハ、「カロリー」、「エネルギー」ハ少イガ鐵質及「ビタミン」量ハ多イ。死亡率、罹患率ハ食物ノ「ビタミン」含有量ニ關係シテキル。原始の人類ハ妊娠前、妊娠期、授乳期中ノ婦人ニ對シ、特別ナル食物及ビ注意ヲ拂ツテキル。發育期中ノ榮養障礙ニ依リ感染率ハ増加スル。或ル地方ノ變性病變が増加スルコトハ、其ノ土地ノ鐵質、「ビタミン」ノ量ノ低下ヲ意味シテキル。血液内ノ燐ハ溶脂性「ビタミン」及ビ高度ノ鐵質ニヨリ影響が大デアアル。原始の人類ガ疾患ニ罹ルコトハ吾々文明ト接觸スルコトニ依リ惹起セラルルモノデアアル。

(三浦秋三郎)

補綴科

間接法ニ於ケル電氣の模型調製法ニ就テ

Modellherstellung für die indirekte Technik
auf elektlistischen Weg. von

V. K. Ilg. Dr. med. dent. D.M.D. (Karlsruhe)

(Zahnärztliche Rundschau 1937. Nr. 46)

鑄造材料ノ收縮ニ關シテハ種々ノ顧慮ガ拂ハレテ居リ、「ワックス」ノ收縮ハ埋没材ノ膨脹ヲ補ツテキル。之ニ反シ間接法ニ於テ用ヒラレル模型ノ收縮ニ關シテハあまり考ヘラレテ居ナイ。即チ之ニ用ヒラレル「アマルガム」ハ硬化ニ際シ膨脹シ「セメント」ハ收縮スル。

變化ヲ來サザル模型材料ヲ求ムルナラ唯電氣化學的ニ沈澱セシメタ銅ガアルノミデアアル。

電解液。硫酸銅 156g. 硫酸 42g. 水 600g. 少シ溫メテ先ヅ硫酸銅ヲ水ニ溶カシ之ニ硫酸ヲ加ヘル。

陽極。電氣銅ノ板ヲ用ヒル。

陰極。銅板ヲ「トレー」トシテ採得セル印象。

方法。(第1圖)110—220Voltノ交流ヲ「トランス」ニヨリ2—4—6Voltニ電壓ヲ下ゲル。

抵抗器ハ100—150Ohm マデ變ヘルコトガ出來、Milliampere meter ハ約200Milliamp マデ測レル。

通法ニ依リ銅環ニ依リ印象ヲ採取シ之ヲ冷空氣ヲ乾燥シ之ニ青銅粉ト「アルコール」ノ混合液ヲ細イ筆デヨクヌル。之ハ粉ノ出來ルダケ細カイモノガヨイ。印象ノ邊緣ノ銅板ト接スル所ハ殊ニ良ク塗ルヲ要スル。之ヲ第3圖ノ如キ陰極保持器ニ第4圖ノ如ク裝置シ銅板ノ露出部ハ印象縁ヲ殘シテ「ワックス」ニテ包ム。

保持器ノ金屬部ト銅板ノ接觸ヲ良クスルコトニヨリ印象面ハ電導性トナル。即 Kermasse ハ少シモ電導性ヲ妨ゲナイ。保持器ノ金屬面ノ殘リノ部分モ同様「ワックス」ニテ包ム。

氣泡ヲ生セシメザル様ニ陰極ヲ液中ニ插入シ、最初ハ出來ルダケ弱イ電流ヲ流ス様ニスル、殊ニ深い印象ノ際ニ於テ注意ヲ要スル。

電壓ハ2乃至6Voltヲ用ヒ初メ20Milliampニテ

第1圖

第 2 圖

第 3 圖

Abbildung 3
Kathodenhalter

第 7 圖

第 4 圖

第 5 圖

第 6 圖

a—Hartgummi b—Messing c—Wachs d—Kupferniederschlag e—Wachsstreifen

10—20 分間流シ後ニ Bad 中ヨリ印象ヲ取出シ一様ニ沈澱セルヤ否ヤヲ確認スル。

印象ノ表面ヲ金屬化シタ青銅ガ透ケテ見エル様デハナラヌ。周圍全體ヲ沈澱ガ覆ツタナラバ 50Mamp ニ上ゲ更ニ 10 分後 80Mamp マデ上ゲ厚イ赤色ノ沈澱ヲ得ル様ニスル。2 時間モ入レテ置クト縁邊部ニ銅ガ附著スルカラ取り出シテ第 5 圖ノ如ク Wachsstreifen ヲ付ケ更ニ 4—7 時間放置スルト第 6 圖ノ如キモノガ出來ルカラ之ニ Hartgibs 又ハ Modellzement ラツメ硬化ヲ待ツテ印象ヲ除去シ、石鹼デ「ブラシ」ヲ用ヒテ洗フ。最後ノ電流ヲ弱クシテ夕方カラ翌朝マデ電流ヲ通ジテモヨイ。

大切ナ事ハ最初ノ電流ヲ強クスルト粗悪ナ暗黒色ノ模型ガ出來ル。之ニ反シテ良好ナモノハ赤色デアアル。

	硬化	強度
利點 { Modellzement	1 時間	弱 イ
1. { Amalgammodell	4—18 時間	中等度
{ Kupfermodell	4—8 時間	強 イ

2. 費用モ安クテ済ム事。

3. 正確デアアル事。

(西村秀苗)

矯 正 科

機能的顎整形ニ用ヒラレタ装置ノ應用ニ

依ル咬合舉上ニ就テ

Über die Bisshebung bei Anwendung von in der Funktions-Kieferorthopädie gebrauchten Apparaten. Von Dr. Karl Häupl.

(Z. f. Stomato. 1937, S. 73)

矯正施術ニ際シテ、咬合ヲ高メルコトハ、前齒部ノ過蓋咬合ヲ整復シ、ソノ結果、上下顎ノ相互關係ヲ正常ナラシメル許リテナク、齒齦ノ器械的ナ刺激ニ依ル變化ヲ治癒サセルノニ役立ツノデアアル。コノ方法ハ、色々ナ不正咬合ノ施術ニ用ヒラレルガ、特ニ下顎ノ遠心咬合ノ治療ニ際シテハ必要缺クコトノ出來ナイモノデアアル、コノ咬合ガ高メラレテ、前齒ノ過蓋ノ狀態ガ良クナル機轉ヲ考ヘテ見ルト、1) 後方齒牙即チ臼齒ガ之ノ長サヲ増加シ、所謂、臼齒部ノ咬合ガ高マリ、コノ際前齒部ニハ何等ノ變化ガナイ。

2) 前齒ガ顎骨内ニ嵌入サレテ、コノ際臼齒部ニハ殆ド變化ガナイ。